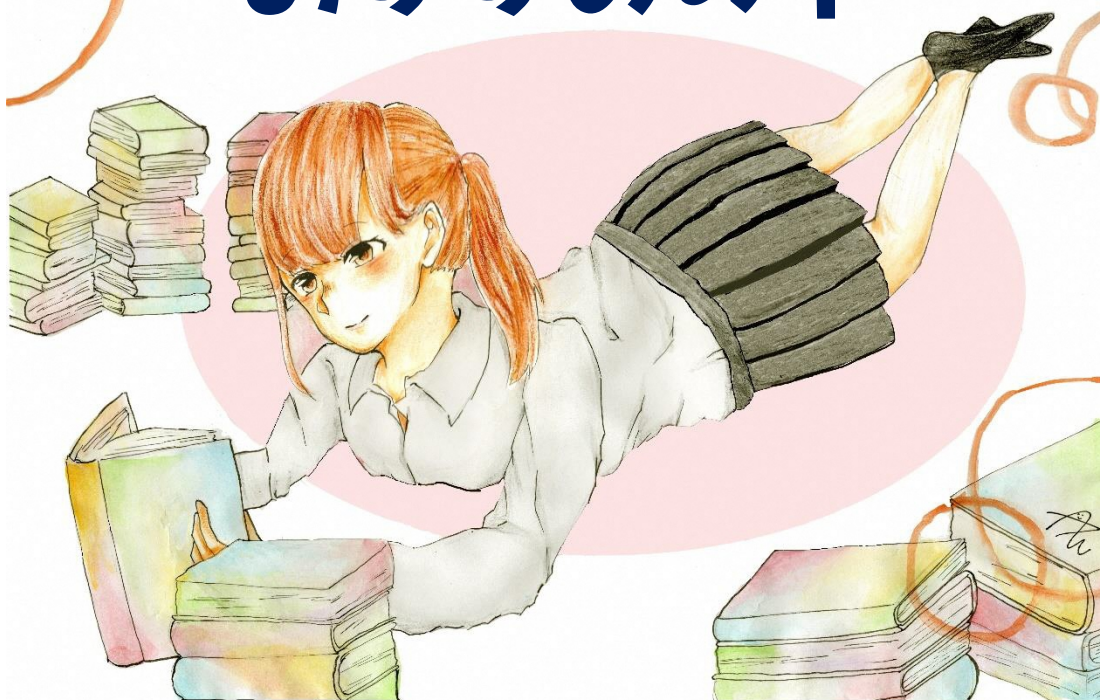


中学生・高校生のみなさんへ おすすめの本



2018 年 10 月発行 発行者：枚方市立中央図書館

〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1 電話 050-7105-8121 FAX072-851-0962

* このリストは 2017 年の選書会議で評価の高かった本のなかから選んだものです。

* F は日本のものがたり、N は外国のものがたり、数字は NDC による分類を表しています。

世界一まじめなおしっこ研究所

高校の先生が本気で教える！自由研究課題・実験事例付き

金子 大輔／著 都 あきこ／イラスト
保育社 491

私たちは「おしっこ」と聞くと、どうしても「汚いもの」というイメージを抱いてしまいます。しかし健康な人が排出したばかりのおしっこは、実は無菌状態なのです。ではなぜ、おしっこからはあの強烈なおいがするのでしょうか。この本は、おしっこという生き物から切っても切り離せないものの疑問について、様々な学問分野から考えていく一冊です。読み終わるころには、あなたのおしっこを見る目が変わっているかもしれません。



太陽ときみの声

川端 裕人／作 朝日学生新聞社 F-カワ

高校 2 年の一輝（いっき）はサッカー部のキャプテン。「明るいサッカー部」を目指し日々奮闘していた矢先、目に異常があることがわかります。治療や検査を続ける中でこれまでのように親友の丈助（じょうすけ）とサッカーを続けられないこと



とで自暴自棄になってしまいます。そんななか音と声を頼りにプレーする「ブラインドサッカー」に出会います。苦悩しながらも自分の居場所を見つけ、成長していく一輝の心の変化が丁寧に描かれています。巻末にブラインドサッカーのルールがあります。あなたもブラインドサッカーの世界を覗いてみませんか。

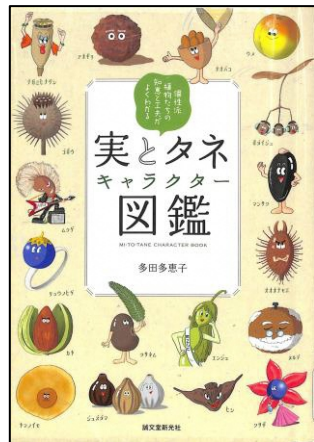
実とタネキャラクター図鑑

個性派植物たちの知恵と工夫がよくわかる

多田 多恵子／著

誠文堂新光社 471.1 タタ

植物のタネは、究極の空間移動装置で、小さなカプセルの中に遺伝情報と芽が育つための養分が入っています。タネは、親植物の近くに落ちると養分の取り合いになるため、より遠くへより広範囲に散らばって新たな生活の場を広げていきます。移動の手段として、プロペラや綿毛で空を飛ぶもの、鳥や動物を利用するものなどいろいろな工夫を凝らしています。この本でタネの不思議を知ることによって植物の観察が楽しくなります。



働くってどんなこと？ 人はなぜ仕事をするの？

ギヨーム・ル・ブラン／文

ジョシエン・ギャルネール／絵 伏見 操／訳

岩崎書店 366

人はどうして働かなければいけないのでしょうか。生きていくためにはお金が必要です。子どもの頃は身近な大人が働き生活を支えてくれています。そして大きくなるにつれて働くということの良い面も悪い面も見えてきます。大きくなって働くということに不安のある人に読んでほしい一冊です。「働く」ということに関して昔の哲学者が残した言葉を学び、自分なりの道を切り開いていきましょう。この本と同じシリーズで『時間ってなに？ 流れるのは時？ それともわたしたち？』という本もあります。二冊合わせて読んでみてはいかがでしょうか。



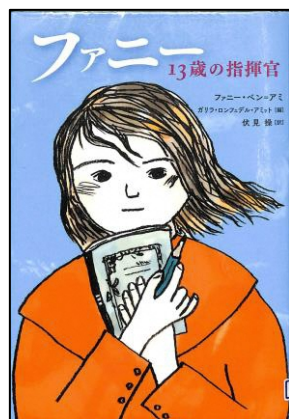
ファニー 13歳の指揮官

ファニー・ベン・アミ／著

ガリラ・ロンフェデル・アミット／編

伏見 操／訳 岩波書店 956

反ユダヤ主義が広がる第二次世界大戦下のフランス。13歳のユダヤ人少女ファニーと24人の子どもたちは安全なスイスへ逃れることになりました。ところが引率の青年が逃げ出したためファニーがリーダーとなり、子どもたちと命がけの旅を続けることになります。幼い命を守る責任に押しつぶされそうになりながらも、彼女は次々と降りかかる危機を冷静に判断し導いていきます。命を顧みず彼女らを慈しみ守り続ける人々や、旅の途中見ず知らずの子どもたちを助ける大人の存在が、密告や裏切りが横行する戦時下に一筋の希望を示しています。実在の少女の戦争体験をもとにして書かれた本です。

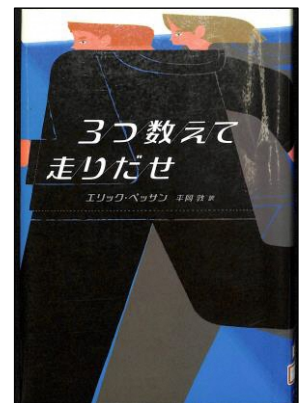


3つ数えて走りだせ

エリック・ペッサン／著

平岡 敦／訳 あすなろ書房 N-ヘツ

いつもと同じ月曜日の朝、トニーとアントワヌは何も考えず3つ数えて走り出しました。二人は盗みや不法侵入を繰り返しながらひたすら走り続けます。最初は「逃げ」だったはずが、走りながら移民のトニーには国外退去の不安と、アントワヌは父親の暴力に苦しんでいる事実と向き合います。1週間で380キロ離れた土地まで逃走しますが、ついに現実にもどらなくてはならなくなったとき、彼らはある選択をしました。大人たちによりはからずも「美談」のヒーローに祭り上げられますが、真相は本人たち二人にしかわからないものだったのです。



さよなら、スパイダーマン

アナベル・ピッチャー／著

中野 怜奈／訳 偕成社 **Nーヒツ**

ジェイミーには双子の姉、ローズとジャスがあります。でも、ローズは5年前、同時多発テロで亡くなりました。ローズを亡くした悲しみから立ち直れず、酒びたりの日々を送る父。時間が止まったまま、何もできない大人たちの中で、10歳のジェイミーは今を精いっぱい生きています。不器用だけど魅力的なジェイミーの姿が描かれています。



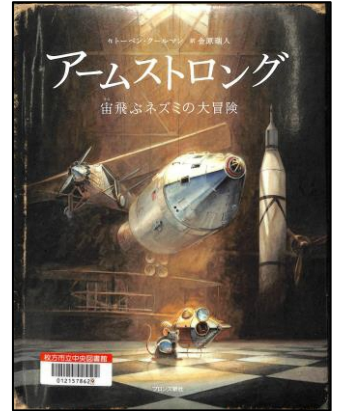
アームストロング

宙飛ぶネズミの大冒険

トーベン・クールマン／作

金原 瑞人／訳 ブロンズ新社 **Nークル**

小ネズミは、誰よりも先に月へ行くと決意しました。望遠鏡で観察をして、月はチーズでなく大きな岩であることを発見したのに、仲間のネズミたちは信じてくれないからです。小ネズミは、図書館の本や大学で勉強し、ロケットの開発に取り組みますが、次々と困難が襲いかかります。大きな夢に挑戦するために、知識と工夫で問題を乗り越えていく小ネズミの物語が、緻密でリアルな美しい絵で語られます。



ぼくはO・C・ダニエル

ウェスリー・キング／作

大西 昧／訳 鈴木出版 **Nーキン**

13歳のダニエルは頭はいいが変わり者と思われています。彼は不安を解消するため毎日つらい秘密の「儀式」をしています。ある日誰とも口を利かない同級生サラから自分たちは特別な存在であり、父親を探す手伝いをしてほしいと頼まれます。サラの父親捜索に振り回されるうえ、補欠なのにたまたま出場したアメフトの試合で勝ったため、周りから次の試合にも出て勝つことを期待されてしまいます。そのうえ好きな女の子への想いや、つらい「儀式」の毎日でダニエルの毎日のはてんてこ舞いです。著者は強迫不安症でその実体験を元にこの作品は書かれています。



セブン・レター・ワード

7つの文字の謎

キム・スレイター／作

武富 博子／訳 評論社 **Nースレ**

少年フィンレイは、スクラブルというクロスワードゲームをインターネットで楽しんでいます。学校では吃音のせいでいじめにあいますが、全国学校スクラブル大会の代表に選ばれます。有名になれば失踪した母に会えるかもという思いから、彼は大会出場を考えはじめます。また、ネットで知り合ったスクラブルの対戦相手が母の情報を知っていると感じ、だんだんのめりこんでいきます。果たして彼は母の居場所を突き止められるのでしょうか。



笑う化石の謎

ピッパ・グッドハート／著 千葉 茂樹／訳
あすなろ書房 **Nークツ**

19世紀のイギリス・グランチェスター村が舞台のこの作品は、作者の実際のエピソードをもとにしています。13歳のビルが彼を取り巻く人々との交流の中で、自分という存在を再認識していく、一人の少年の成長物語です。父親の失業、学校でのいざこざ、化石発掘をきっかけにした親戚のアルフとの間に生まれる友情、親戚のおじさんの逮捕など、ビルたちがおかれている状況はめまぐるしく変化します。その中でビルは何を感じ、どのような選択を取るのでしょうか。



木の中の魚

リンダ・マラー・ハント／著
中井 はるの／訳 講談社 **Nーハン**

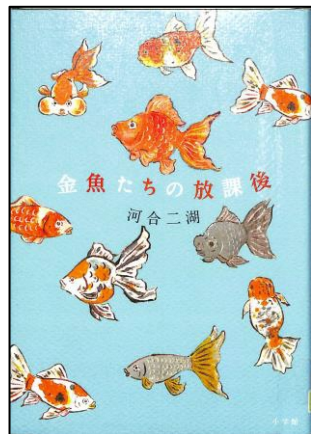
6年生のアリーはみんなと同じように読めないのを隠すためにいつも変な行動をとり、いじめられがちでした。新任の先生に文字を読むのが困難な難読症（ディスレクシア）であること、それが個性であるということを認められ、少しずつ障害のある自分と向き合いながら克服していきます。いつも同じシャツを着ているアルバート、転校してきたばかりなのに思ったことを口に出せるキーシャ。クラスで浮いた存在の二人と友情を深めます。お互いの個性を認め、学校生活を楽しむ彼女らの姿に、読者は前を向いていく力をもらえる物語です。



金魚たちの放課後

河合 二湖／著 小学館 **Fーカワ**

東京の外れにある金魚の街に住む少年と少女の二つのストーリー。一つめは、飼う生き物が全て死んでしまう〈死神の指〉を持つ5年2組のイケメン灰原慎（はいばら しん）の物語。二つ目は、その5年2組に転校してきた遠藤蓮実（はすみ）が、中学2年になった時の物語です。小学校5年生のとき慎と蓮実は、学校で飼うことになった金魚が1年生きられるかどうか賭けをします。



家族がすれちがい、ばらばらの時間で暮らす慎と、転校を繰り返してきた蓮実。寂しい思いをしている二人が金魚を通して時々交わり、成長していく様子が優しいまなざしで描かれる物語です。

ラブリー！

吉田 桃子／著 講談社 **Fーヨシ**

中学2年の井出拓郎は、映像コンクールで受賞した審査員特別賞作品の講評の中で主演の涼子を「ブス女優は素晴らしい。ラブリー」と評価されてしまいます。周りがさわぎ涼子を知ることでは傷つくのではないかとやきもきさせられます。親友の榎木の太っていたことで小学生時代にいじめられた過去、美少女の垂美奈の悩み、容姿の事で傷つけてしまった幼馴染の橘など、人の見た目について考えさせられる出来事が、ユーモラスに語られます。ピンクのカバーは見た目、ラブリーです。

